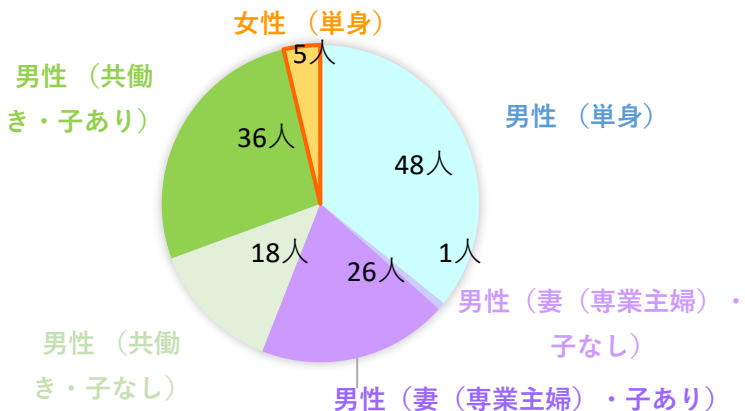


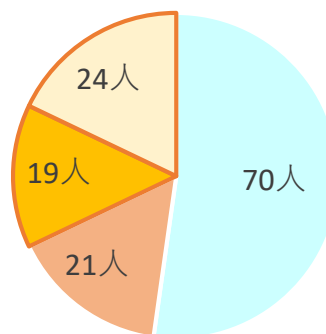
内閣府防災職員へのアンケート結果（令和2年12月）

職員数147名中有効回答数134名

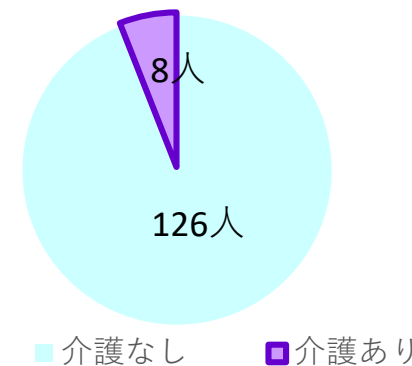
内閣府防災職員の属性分布



育児中の職員の割合

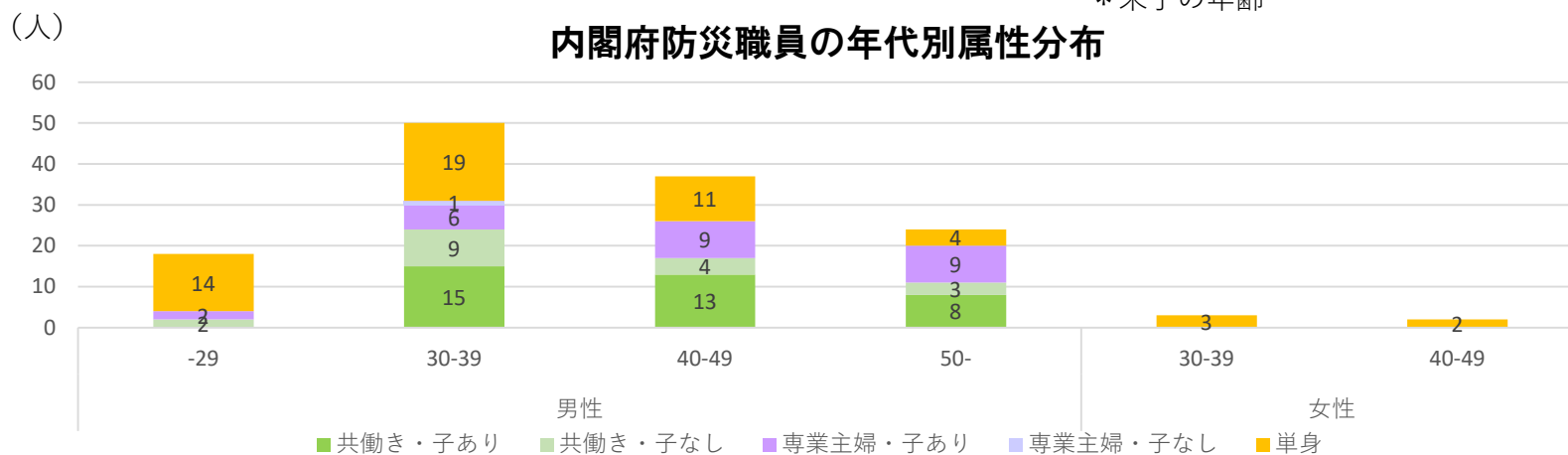


介護中の職員の割合



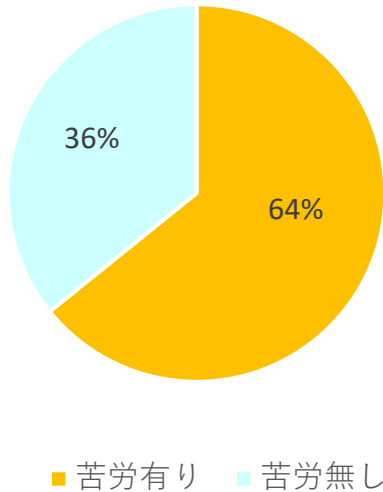
*末子の年齢

内閣府防災職員の年代別属性分布



- ・ 女性職員の割合が圧倒的に少なく（5名）、全員単身者である。
- ・ 男性職員は30代以上の約半数が共働き世帯である。
- ・ 小学生以下の子どもがいる世帯は約30%である。
- ・ 介護中の職員の割合は少ないが、ほとんどが単身者または共働き世帯である。

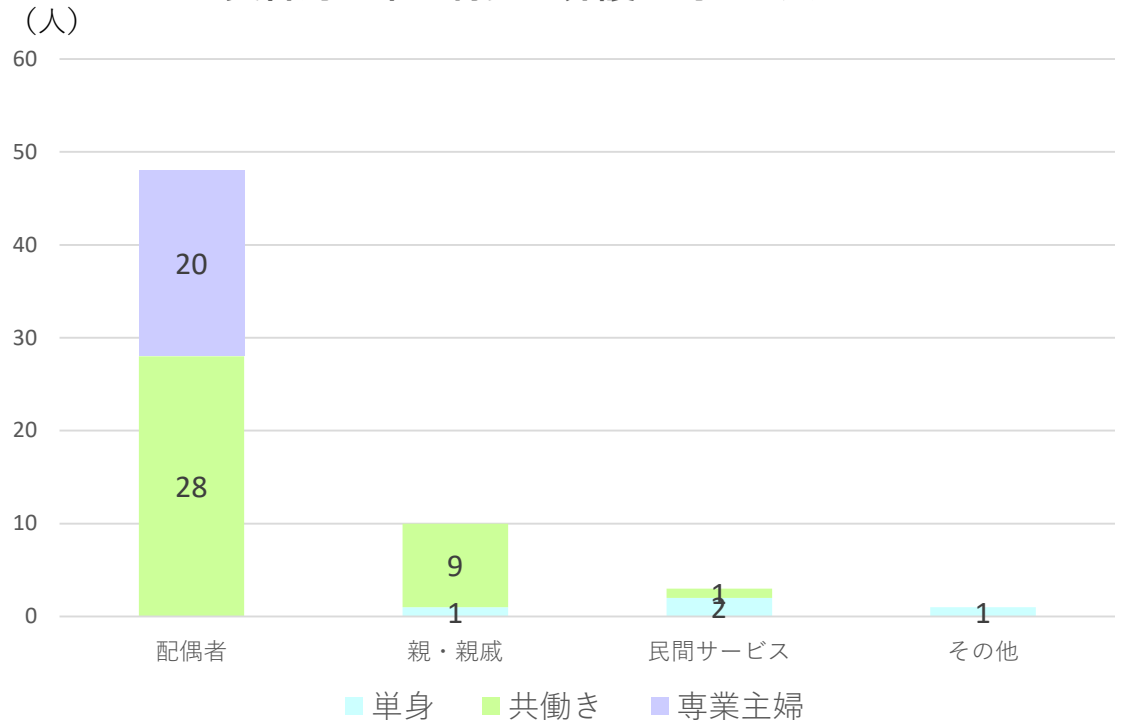
災害対応中の 仕事と家庭（プライベート）の両立



（主な意見）

- ・長時間労働や休日出勤もあり、仕事と家庭の両立ができない
- ・家事や育児について、家族にかかる負担が大きい
- ・家族の行事や予定が犠牲となる、家族のための時間がとれない

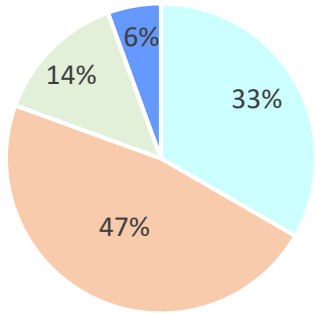
災害対応中の育児・介護の対応（複数回答有）



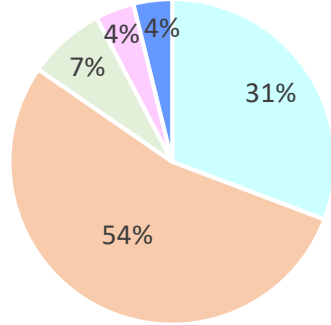
- ・災害対応中の仕事と家庭の両立について、6割強の職員が苦勞があると回答している。
- ・災害対応中の育児や介護は配偶者が対応しているケースが多いが、そのうち約6割は共働き世帯である。

災害対応中に特に大変さを感じること

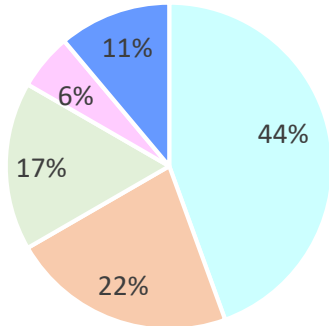
共働き・子あり



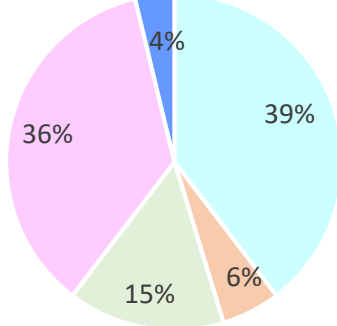
妻（専業主婦）・子あり



共働き・子なし



単身



■ 困難なし ■ 家族 ■ 心身 ■ プライベート ■ その他（無回答含む）

* 妻（専業主婦）・子なしの回答数は1人で「困難なし」と回答

（主な意見）

【家族】

- ・家事・子育て、介護などすべて配偶者任せになるためかなりの負担をかけた
- ・休日も対応が必要なため、仕事と家庭の両立が困難

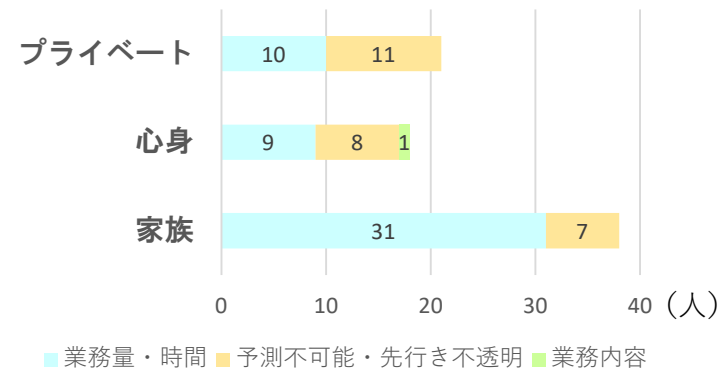
【プライベート】

- ・参集や現地派遣となる可能性があるため、休日の予定を立てにくい
- ・災害対応中はプライベートの時間がほとんど持てない

【心身】

- ・責任やプレッシャーが大きい上に、深夜・土日まで対応が続き、肉体的・精神的な負担が大きい
- ・現地派遣の期間がわからず先行きが不透明、また休日・夜間等の対応が続くことによる肉体的・精神的負担が大きい

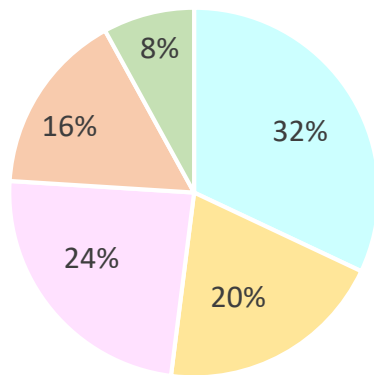
大変さを感じる要因



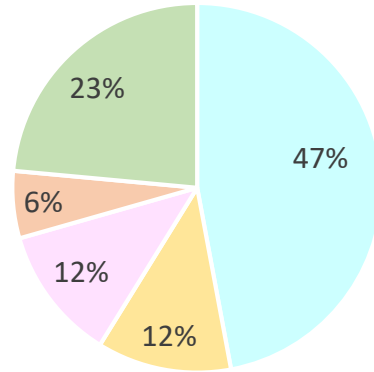
- ・ **子供がいる場合には、共働き・専業主婦の世帯にかかわらず、家族に関する大変さを感じている割合が高い。(50%)**
- ・ **単身世帯はプライベートや心身の健康に関して大変さを感じている割合が高い。(約50%)**
- ・ **大変さを感じる要因としては、いずれの項目でも業務量や業務時間（時間外労働）の多さ、予測不可能・先行き不透明（突発的対応、長期化など）が多い。**

仕事と家庭の両立の観点からの要望事項

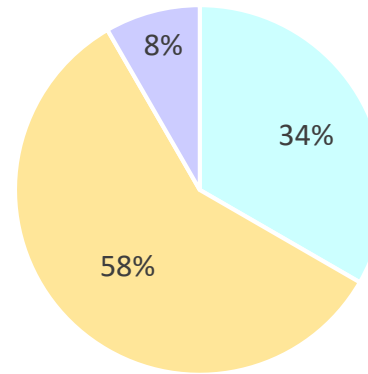
共働き・子あり



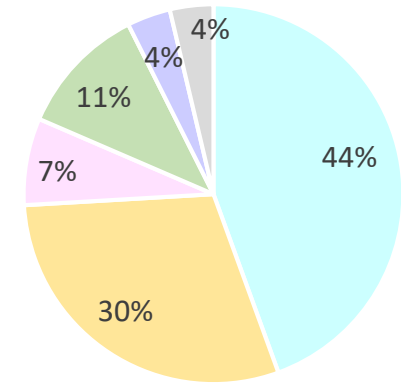
妻（専業主婦）・子あり



共働き・子なし



単身



■ 体制改善 ■ 業務量縮減・効率化 ■ テレワーク推進 ■ 家族の理解 ■ 人員配置 ■ 業務の標準化 ■ 補助制度

(主な意見)

【体制改善】

- ・ 現地派遣は一週間を目安に交代制にしてもらいたい
- ・ 現地派遣職員が一定期間のサイクルで交代できるような体制構築が必要
- ・ 危機管理宿舎での単身赴任により、子育てなどで家族に大きな負担がかかるので、長期間の在任は厳しい

【業務量縮減・効率化】

- ・ 特定の室・職員への業務の集中改善
- ・ 残業を短くするような職場の雰囲気が必要

【テレワーク推進】

- ・ 環境整備を含めたテレワークの推進をしてほしい

【人員配置】

- ・ 長期間の在任は非常に厳しい
- ・ 部局への配置はある程度家庭環境等を考慮してほしい

【家族の理解】

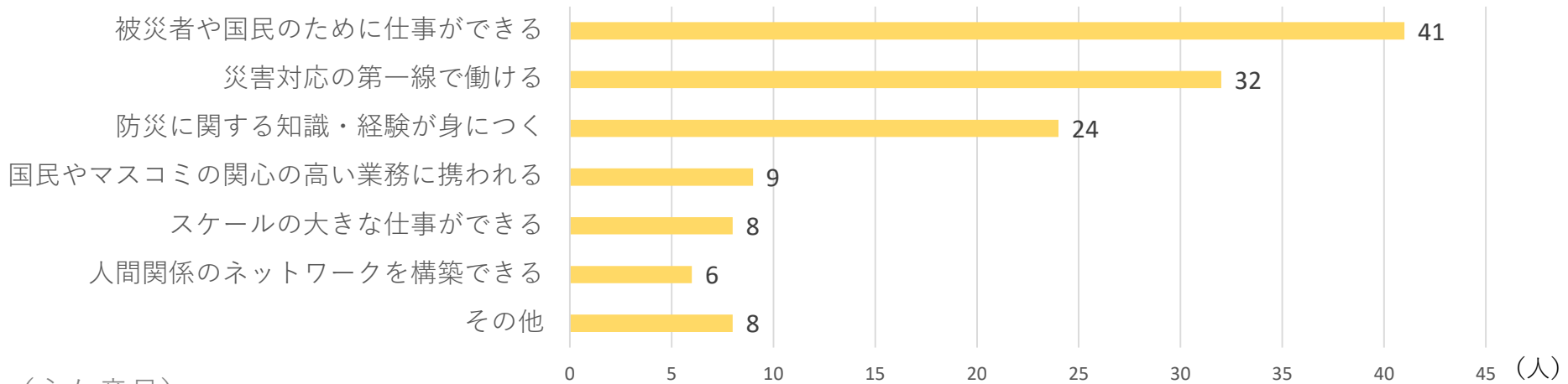
- ・ 家族の理解と覚悟が必要

【その他】

- ・ 災害時の業務の標準化が必要
- ・ 災害対応中の保育や介護の補助制度があるとよい

- ・ **いずれの属性も、体制改善や業務量の縮減、効率化を望む声が高い。**
- ・ **共働き・子ありの世帯では、テレワークの推進を望む声が高い。**

内閣府防災職員として働くことのやりがい・メリット（複数回答有）



（主な意見）

【社会的貢献】

- ・国民の命や安全な暮らし、生活改善に直結する仕事である
- ・努力すればするだけ国民から感謝される
- ・国民から直接激励・感謝される機会を得られる

【第一線での災害対応】

- ・災害時に政府の最前線で対応できる貴重な機会が得られる
- ・各省庁の施策に横断的に関わられる

【知識・経験】

- ・防災関連制度や災害対応のノウハウについて学べる

【国民の関心】

- ・国民から関心の高い災害対応に関われる
- ・重要なニュース報道の内容に関与できる

【スケール】

- ・自治体や民間では経験できないスケールの大きな仕事に携われる

【ネットワーク構築】

- ・各省庁や民間、自治体の出向者とのネットワークが構築できる

【その他】

- ・前向きで即決の仕事が多い
- ・成果が目に見える

- ・被災者や国民のための仕事ができることをやりがいとする意見が多い。
- ・災害対応の第一線で働けることや知識・経験が身につくことをメリットに挙げる意見も多く見られる。